

4 その他の調査計画(案)

4.1 目的

本調査は、各モデル地域で懸念されている事項や、クリーンアップ調査・フォローアップ調査の結果と合わせて、漂流・漂着ゴミ削減方策を検討する上で必要な事項について調査・検討することを目的とする。

4.2 調査内容

本他調査は 9 項目の調査から構成されている。平成 19 年度に山形県で実施する主な調査の概要を表 1 に、調査内容を表 2 に示す。なお、の定点観測調査の内容は、資料 4 に示した。

表 1 その他の調査の概要

調査名称	概要
漂着ゴミの発生源及び漂流経路に関わる調査	数値シミュレーションによる漂着経路の把握及び標識放流による漂着割合把握に係る調査を行う。標識放流には、生分解性プラスチックのペットボトルに相当するものを使用する(山形県赤川河口)。
定点観測調査	各モデル地域において高頻度の定点観察を行い、漂着状況を経時的に把握する。また、赤川を対象に流下するゴミの種類判別と個数計測を行う。調査方法は、デジタルカメラによる定期的な撮影(週1回)やビデオカメラ撮影(山形県赤川河口)により行う。
上記以外の「その他の調査」 医療系廃棄物に係る実態調査 観光資源価値向上の検討に係る調査 微細なプラスチック破片による生態系への影響調査 漂流経路把握調査 国内向け及び海外向け広報活動の検討 流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)開催の検討 河口域及び海域におけるゴミ回収方法等に係る調査	

表 2 漂着ゴミの発生源及び漂流経路に関わる調査

	a. 漂流経路シミュレーション	b. 漂着割合把握調査
目的	漂流・漂着経路の推定	漂着位置、割合の把握
調査箇所	赤川河口部	赤川河口部
調査時期	平水時 1 回 出水時 1 回	平水時 1 回/年 出水時 1 回/年
調査対象	ペットボトルを対象とする。	ペットボトルを対象とする。(生分解性プラスチック製の標識ペットボトルを製作)
調査方法	既往の各シミュレーション手法を比較検討し、ゴミの漂流経路シミュレーションに適した手法を選定する。物理環境データを整備し、ゴミの漂流経路シミュレーションを実施する。	標識ペットボトルを 1000 本/回放流する。漂着したペットボトルは、クリーンアップ調査にて回収する。また他地域において漂着した標識ペットボトルの回収率を高めるため、標識ペットボトル調査の周知・回収依頼ポスターを作成し、周辺自治体、漁協等に配布する。なお、未回収のペットボトルが及ぼす環境影響を最小限にするため、ペットボトルは生分解性プラスチックで製作する。

4.3 結果取りまとめ

その他の調査で行う各調査と、漂流・漂着ゴミの発生抑制・除去・漂着防止に係る各施策との関連は図 1 のようになると考えられる。これらの関連性に基づき、関連するクリーンアップ調査・フォローアップ調査の結果と併せて、各調査結果の解析を行い、漂流・漂着ゴミの削減方策の検討に向けた結果の取りまとめを行う。

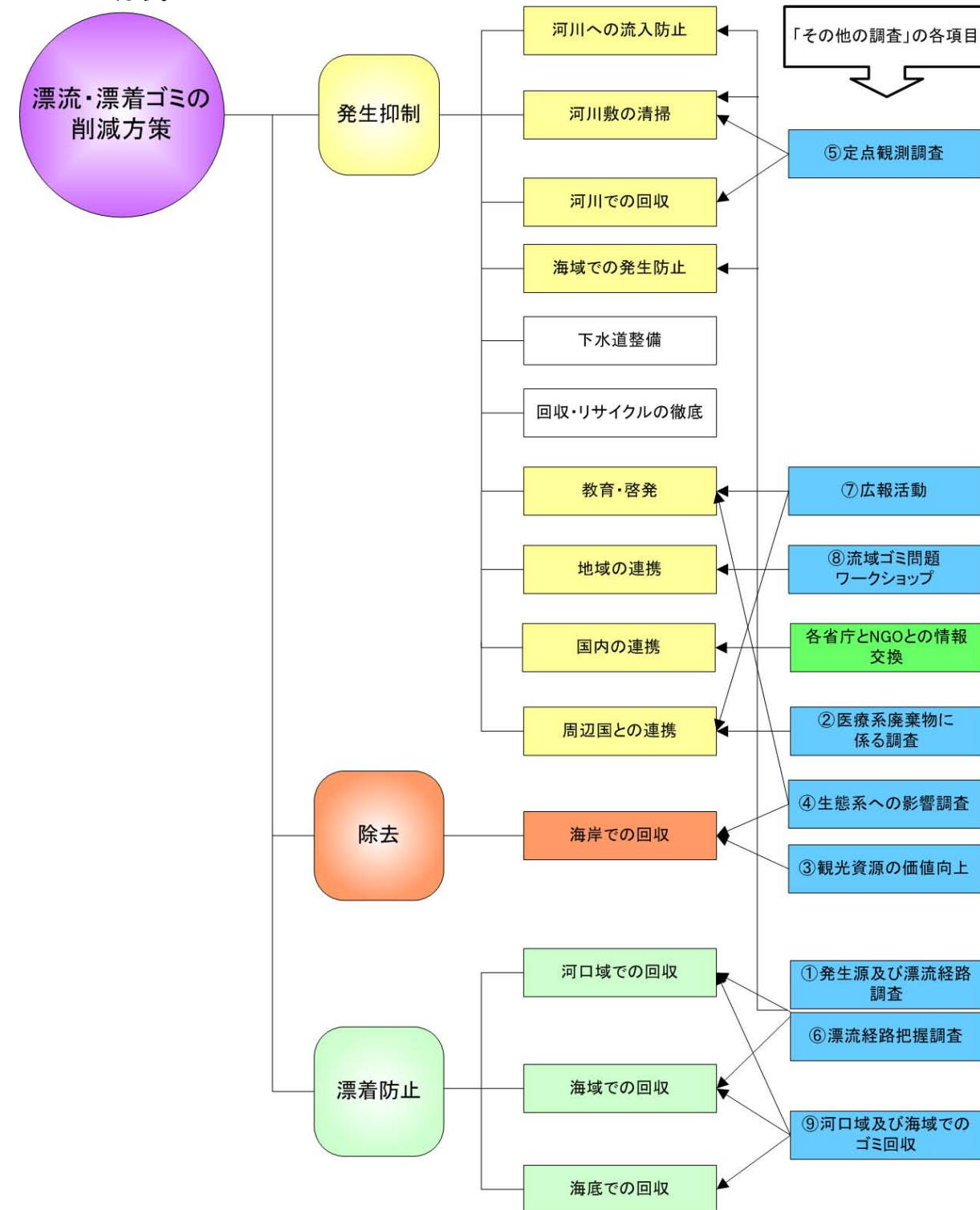


図 1 漂流・漂着ゴミの削減方策と「その他の調査」項目との関係

